

|                            |                                      |
|----------------------------|--------------------------------------|
| 氏名                         | 藤 原 久 子                              |
| 学 位 の 種 類                  | 医 学 博 士                              |
| 学 位 授 与 番 号                | 乙 第 5 4 3 号                          |
| 学 位 授 与 の 日 付              | 昭和48年 3 月31日                         |
| 学 位 授 与 の 要 件              | 博士の学位論文提出者<br>(学位規則第 5 条第 2 項該当)     |
| 学 位 論 文 題 目<br>学 位 論 文 題 目 | 妊娠末期尿中エストロジェン 8 分画の推移と頸管因子に関する研究     |
| 論 文 審 査 委 員                | 教授 水 原 舜 爾    教授 山 崎 英 正    教授 大 藤 真 |

### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

妊娠の進行に判う子宮腔部の潤軟化に、妊婦尿中に激増する Estrogen (以下Eg) が重要な役割を演ずるのではないかと考えられるが、同一症例について頸管因子との関連性を追求した報告はない。

著者は薄層クロマトグラフィーと Salokangas の発色方法を用いて、妊娠10ヶ月頭位の初産婦について、妊娠37週より尿中 Eg を 8 分画に分画定量する事により、頸管の状態と関連性の強い Eg 分画の有無を追求した。又、頸管の潤軟化の正常なものと、遅れるものとの差異及び、臨床的に Estriol 剤を使用したものについて、その分画値及び、臨床経過より Eg の産科領域に於ける意義について検討し、次のような結論を得た。

- 1) 妊娠37週以後の尿中Egの95%は Estriol である。
- 2) 頸管と関連性の認められる分画は Estriol と 16-epi-Estriol 分画である。
- 3) Estriol 分画値と頸管因子の間には、明瞭な相関とはいえないまでも、頸管が成熟型のまま経過する症例では、比較的高い値で分娩に向って減少し、未熟型より成熟型への移行に際しては、一度大きなピークを画いて減少し、未熟型のままの症例ではそのピークの形成が殆んど無く、比較的低値であった。
- 4) 頸管の未熟型のものに Estriol 剤を使用した症例では、在胎日数及び分娩時間の短縮を認めた。

### 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は、各種 Estrogen の尿中排泄量の定量法を考案し、之を用いて妊娠末期に於ける子宮頸管の成熟度と個々の Estrogen 排泄量の関係をしらべた結果、Estriol が所謂この頸管因子であることを推論している。産科学上価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は、医学博士の学位を得る資格があると認める。